

星の宮第一町内会

自主防災組織本部

地区防災計画への取組み
について。

自主防災組織

1. 地域の概要

- ①沿革・昭和46年4月開町されました。
- ②その後・日立製作所中条工場が誘致され、日立従業員個人住宅が一挙に増え、クラレ、水沢工場などの社員の住宅が建ち現在「世帯数208世帯・空き家22件」人口「570人」の構成。
- ③胎内市の中で超高齢地域であり・65歳以上が39.5%を占めております。(※)※
- ④自主防災組織の設立・平成18年4月 役員は町内会のあて役とした。
- ⑤地域の特徴・世帯の3分の2の地域は「切土」「盛り土」を中心とした造成地である事。
- ⑥昭和53年・56年の耐震制度以前の建築住宅が70%を占めています。

2. 取り組み実施の背景 (なぜその事業を実施しようと思ったのか?受け入れたのか)

- ①災害に備えて全く無防備である地域であった。
- ②全町防災に対する意識の希薄な状態を何とかしなければ成らないと考えた。
- ③当該地域は前条通り「切土」「盛り土」による地域であり世帯で3分の2を占めていますそのためには防災への備えと意識への高揚が欠かせない地域である。
- ④平成25年政府は「地区防災計画」案を発令されました。「地域は地域で守る基本を考え、平常時からの防災への意識と備えを持つ事」への高揚が大切である。
26年4月再度の「地区防災計画」発令され町内地域性を鑑み必要不可欠と考えた。
- ⑤大半が災害時には「公助」を中心に考える事が常のようである、これを阪神淡路大震災の事例を周知し「地域は地域で守る」事への大切さを訴えてきた。
- ⑥超高齢地域であり特に「自助」と「共助」が最も大切である事を全町に働きかけることが最も大切と考えた。
*防災リーダー養成講座を受けてみての感想。意識の変化。スキルの取得など。
- ① 講師による事例体験は大変に参考になった。(この時は、山古志地域の事例体験であった) 上村教授
- ② 体験に勝るものはないと考えます、出来れば、もっと「自主防災組織」の立場からの事例体験などがあればさらに胸奥に残るのではないかと思います。

3. 取り組みの概要 (実際に地域でどのような事が行われたか)

基本的には1項と同じであります。

- ① 自主防災組織発足以来6年間は机上訓練的なものであり、又役員の代表者が地域を回って終わるだけという訓練であった。(実のある訓練と防災組織強力にする事が先ず大事と受け止めた)
- ② 「備えあれば憂いなし」何時・何処に・どの様に起きるかわからない災害に対し、私たちの地域は地域で守る事への最低限の備品対策と組織の充実を図っていくべきと考えた。
- ③ 全町内の皆さんのが実参加型とする事が不可欠と考えた、「自助」があって「公助」が出来ることに高齢地域の最も大切なことを強調した。

そのうえで、避難の3原則「想定にとらわれない避難者たれ」「率先避難者たれ」「避難に最善を尽くせ」を徹底する。

*取り組みの概況

- ①直近3年間・平成25年~27年の取り組みについて。
 - ・防災組織の見直しを行った。「防災組織の役員は(別紙)会長以外の役員は粗一年で交代となり防災組織力が弱まり防災運営に支障があったが組織の強化を図る為、各班11より多年に亘る役員として防災推進委員を選んで頂き強化をした」
 - ・年間行事として「防災訓練年1回全町民参加型」この訓練で要介護者への対応などを行った。
「平常時防犯灯や消火栓と消火器具の点検など」「夜回り等も実施」
 - ・今年度は「地区防災マップの制作に取りかかる」取り掛かる為の概要は次ページ。

地区防災マップ制作に取り掛かった経緯。

- ・以前より防災マップは在ったほうが良いとの声がありましたが、取り掛かるには実際に厳しい現状がありました、しかし、昨年4月に「地区防災計画」が発令されてからは特に地域性を鑑みるに必要不可欠と判断し防災拡大役員会を開き説明検討を行った。
- ・役員会では、「地区防災計画」について説明を行い、特徴ある地域の現況と超高齢地域の概況を説明し理解を求めた。
防災マップ必要性への理解はされたが、取り組みへの手段について意見が分かれた。

取り組みへの手段について。

- ・D I Gによる防災マップ制作説明お行う。(事前の防災3役会での説明・市担当長谷川氏出席指導頂く)
先ず、1班から11班がそれぞれの班ごとに「タウンウォッチング」する方向で説明し理解を求めたが賛同得られなかった。

無理の理由としては、60%の班が数十年間一度も班の集いが無いのに今ここで班ごとには出来ない、もっと別の方法で考えてほしいとの意見が殺到した。

検討の結果①全世帯に回覧版で趣旨説明を行うこと。(再度) ②D I G「ビィツーアスタイルマジネーションゲム」の「タウンウォッチング」をチェック項目を作り全世帯に配布し記入回収する方法を考えてほしいとの意見が上がりました。

その結果「防災チェックシート」(別紙)を作成して全世帯に配布し全世帯参加型とした。(回収率40%)

- ・防災チェックシートの纏めについて。

当町内会には「緊急避難場所」を3か所指定しております。

①東公園緊急避難場所。 ②中央ひろば緊急避難場所 ③西公園緊急避難場所に緊急一時避難場所として指定しておりますので「防災チェックシート」は最終的に3か所別に纏めて防災マップに記載する事とした。

4. 取り組みの成果とその理由

*防災への取り組みは全世帯参加型とすることが最も大切であると受け止めました。

その理由は、全世帯参加型の防災訓練に踏み切ったのは避難の3原則にあります「想定にとらわれない避難」「率先避難者たれ」「避難に最善を尽くせ」これらを踏まえて避難は躰で覚える事が避難への前提である。

- ・毎年行う防災訓練には、180名を超す参加者で、防災意識が高揚されてきたと確信しております。
また、3か所の緊急避難所から集合した町内の全員が項目別訓練へ参加をし防災へのスキルアップをいたしました。
- ・又、訓練時は、「要援護者」の方への心遣いとして黄色リボンを配り玄関先に出して援護救済への目印とし防災訓練への参加とした。
- ・27年度の防災訓練には、一部地域高齢者向けバス避難を仕立て実施した。(好評不可欠であり町内会では緊急避難時には「北都観光」様と協定を結ぶ)
- ・冬季緊急避難場所として「2カ所の無雪駐車場」を確保しております。

*マンネリ化する中、別の取り組みをしてみてはどうか。

- ・防災訓練の基本は継続することが基本であり、継続の中に躰で避難をする事への行動へと繋がりであるため基本を蔑ろにする事は絶対避けたい。
- ・マンネリ化を防ぐためには、基本訓練に付随する訓練や防災講話などに主催者は試行錯誤を施し実りある訓練にしたいものです。
又、訓練時には、防災備品などの紹介や使い方などをしっかりと参加者に熟知していただく事も大切であります。
- ・町内会では年に行う主要行事が「納涼祭」「文化祭」の2行事があります、これら全て防災行事の一環として捉え行っている。
- ・隣接町内会と連携した防災訓練も必要と考えます、これは「市」の防災訓練と違った意味で大切と考えます。
「地区防災計画」としての一環でもあると考えるからです。

5. 今後の展望と課題

- ・夜間訓練なども必要と考える、最初は地震や大災害以外の大掛りな停電など想定したものや、断水などを想定した訓練にした夜間訓練などを企画してみるのも大切と思う。
- ・また、前条にも述べたように隣接町内会とも連携した総合的な防災訓練もしていくことも大切と思う。
- ・高齢者に焦点を合わせた防災訓練も考える時期と思える。（地域ぐるみの「共助」を中心に役割分担を明確にして実施してみるのも時代の流れ感ずる。）

*マップ以外に行ってみたい活動はあるか。

- ・崩壊した家屋からの被災者救出作戦等を行ってみるのも大災害に備えるものとおもう。
- ・地域性を生かした訓練（崖崩れを想定した訓練など）・

6. 市町村に対する要望

- ・市主催の防災訓練は毎回参加しておりますが「公助」の立場からは大変参考になりますが、自主防災組織（町内会）の現場中心の「共助」から「公助」への繋がりのある訓練も試みることも大切だと思う。
また、せっかく数町内や防災会が集いますので防災対抗競技なども考えてみるのもよいかと思う。
- ・補助金制度について、「自主防災組織」（町内会）にとっては心強いものはありません、今後もできる限りの継続をお願いした。

自主防災組織

1. 現状抱えている課題とその原因

- ・現在「自主防災組織」の役員には町内会役員があて役であるが、今後は消防署退職者等、防災士等の広く人材を登用し「自主防災組織」の3役等、あるいは「自主防災組織」のトップなどに添えることも組織の強化になるのではないかと思う。
- ・「自主防災組織」の役員は大半が町内会役員のあて役である、会長以外は粗半年や1年で変わるため防災組織の人材としての機能的効果がなされないかと考えます、今後自主防災組織強化のために熟慮することが大切であると考えます。

2. 市町村への要望

* 「市」自主防災組織連絡協議会について感じた事。

- ・自主防災組織会議に於けるリーダー会議の回数を増やしていただきたい、触発するチャンスは出席者におけるデスカッショ等に依るからであります。
- ・防災士を含む、各自主防災組織の役員を対象にしたグループ討議や各自主防災組織の実体験の発表会等は大変効果が上がるのではないかと思う。

「星の宮第一町内会」防災マップ取り組み

平成27年12月20日
星の宮第一町内会
自主防災組織本部
本部長 工藤壽雄

★本日の取り組みは「D I G」による基本的な方法で行った。

- タウンウォッチング（街歩きで危険個所の想定や役に立つ個所をチェックする）



- 課題の提示（太陽紙大の地図に課題を標示する作業）

